

目的: 設定した課題に対して、研究計画を言語化することで、計画の問題点等を発見する。研究を進める中で、計画の見直しや結果のまとめを行い、教員・TAとの面談材料にしたり、論文作成の基本構成として活用する。

研究テーマ 決して研究内容がわかるように具体的に書く。研究を進める過程で変更することもある。そのまま論文タイトルになる場合もある。

シロアペンゼルの素直さの歪みによる変化

背景 ・自分がなぜこのテーマを研究したいと思ったのかを書く。
・「テーマ」に関して現存している問題など、社会的あるいは学問的意義(問題意識・問題の所在)を書く。

又原長が材料より、何より高い(高直)の材料を使う

歪みは材料の歪み(材料の歪み)より材料の歪み

歪みは材料の歪み

課題・目的・仮説 「背景」をうけて自分は何を疑問に感じたのか、何を理解したいのかを具体的に書く。自分の中で立てた仮説があれば書く。

素直さの歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

素直さの歪みは材料の歪みより高い材料を使う

仮説: シロアペンゼルの歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪み

仮説は材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

手法 ・疑問から答えにいたる道筋はどのようなものか、どのような手法で明らかにしようとするのかを具体的に書く。 $\sin(x) = x$

仮説検証・論証のために、どのような材料が必要か、具体的に書く。(書籍・雑誌資料など)

最適な手法を選べるために、先行文献や資料を調べること、使えそうな手法を書く。

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

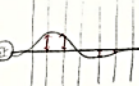
歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う



現状の整理 ・これまでの研究で分かっていることやつまりしたこと、目的達成や仮説検証のために考えていることや考えたことを書く。
・研究テーマを明らかにするために必要な新たなテーマや、課題、仮説を書く。

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

歪みは材料の歪みより高い材料を使う

参考文献 用いている論文や単行本などを、ルールに則り一覧にして記載する。論文を執筆する際、参照となることを防ぐための準備。

1207 Dr. Grip CL 30.h Dr. Grip CL PLAY BALANCE
検索: N2111522 <https://www.plst.co.jp/permissions/special-sites/dr-grip-play-balance>

相談したいこと

目的: 設定した課題に対して、研究計画を言語化することで、計画の問題点等を発見する。研究を進める中で、計画の見直しや結果のまとめを行い、教員・TAとの面談材料にしたり、論文作成の基本構成として活用する。

研究テーマ 筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニングが心臓に与える影響

背景 ・自分がなぜこのテーマを研究したいと思ったのかを書く。
・「テーマ」に照らして現在行っている課題など、社会的あるいは学術的背景(問題意識・問題の所在)を書く。

文献が豊富で、何にもない(高血圧)などある。その中で研究したいところを見つける。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニング

課題・目的・仮説 (背景)をうけて自分は何を疑問に感じたのか、何を明らかにしたいのかを具体的に書く。自分の中で立てた仮説があれば書く。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

手法 ・疑問から答えに至る道筋はどのようなものか、どのような手法で明らかにしようとするのかを具体的に書く。 (手順・使用する材料など)
・仮説検証・論証のために、どのような材料が必要か、具体的に書く。(文献・追加資料など)
・最適な手法を選定するために、先行論文や資料を必ず読み、模倣する手法を書く。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

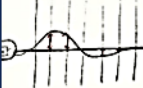
筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。



現状の整理 ・これまでの研究で分かっていることや気づいたこと、目的達成や仮説検証のために考えていることや考えたことを書く。
・研究テーマを明らかにするために必要な新たなテーマや、課題、仮説を書く。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

今後の計画 現状の整理を踏まえて、具体的にどのように研究を進めるかを書く。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。

参考文献 用いている論文や参考文献などを、ルビに明記し、併記して記載する。論文を執筆する際、参照となることを防ぐための準備。

1207 Dr. Grip CL 30.h Dr. Grip CL PLAY BALANCE
筋力トレーニングが心臓に与える影響に由来する。そのまま論文タイトルになる場合がある。
<https://www.plot.co.jp/communication/special-sites/drgrip-play-balance>

相談したいこと



JUMP

47巻 せみ

研究状況報告書 Vol. 1

中間発表(5~6月)に向けて作成しよう(中間発表時に提出)

目的: 設定した課題に対して、研究計画を言語化することで、計画の問題点等を発見する。研究を進める中で、計画の見直しや結果のまとめを行い、教員・TAとの面談材料にしたり、論文作成の基本構成として活用する。

研究テーマ: 最近の研究内容がかなり具体的に示され、研究を進める過程で変更する必要がある。その場を論文のタイトルにする場合がある。

テーマ: JUMPのバージョンアップによる向上変化

背景: 自分がなぜこのテーマに研究したいと思ったのかを書く。テーマにした理由(個人的興味や、社会的あるいは学術的意義)を簡潔に説明しておく。

文脈: 背景材料、例として、高度化、デジタル化、AIの活用...

研究の目的: AIの活用による効率化と品質向上...

期待される成果

課題・目的・仮説 (前提)を明記して自分の何を仮説としたのか、何を検証したいのかを具体的に書く。自分の中では仮説が複数あってもいい。

課題: 高度化によるコスト削減と品質向上の両立...

目的: 高度化によるコスト削減を実現する...

仮説: 高度化によるコスト削減は、品質向上を伴う...

検証方法: 実験、シミュレーション、アンケート...

手法: 疑問から答えになる過程はどのようなもので、どのような手法で検証を行うかを具体的に書く。手順、実験、シミュレーション、アンケートなど。

検証結果: 高度化によるコスト削減は、品質向上を伴う...

正の形に近づけるように、4次元空間で検証を行う...

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

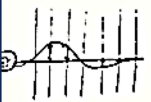
正の形に近づけるように、10秒以内には...

① → ② → ③ → ④ → ⑤ → ⑥ → ⑦ → ⑧ → ⑨ → ⑩

①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯、⑰、⑱、⑲、⑳

①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯、⑰、⑱、⑲、⑳

正の形に近づけるように



現状の整理: これまでの研究で分かっていることや予想したこと、目的達成や仮説検証のために考えていることや考え直したことを書く。研究テーマを明確にするために必要な新たなテーマや、課題、仮説を書く。

5人台 → 7人台 → 9人台 → 10人台 → 15人台 → 20人台 → 25人台 → 30人台 → 35人台 → 40人台 → 45人台 → 50人台 → 55人台 → 60人台 → 65人台 → 70人台 → 75人台 → 80人台 → 85人台 → 90人台 → 95人台 → 100人台 → 105人台 → 110人台 → 115人台 → 120人台 → 125人台 → 130人台 → 135人台 → 140人台 → 145人台 → 150人台 → 155人台 → 160人台 → 165人台 → 170人台 → 175人台 → 180人台 → 185人台 → 190人台 → 195人台 → 200人台 → 205人台 → 210人台 → 215人台 → 220人台 → 225人台 → 230人台 → 235人台 → 240人台 → 245人台 → 250人台 → 255人台 → 260人台 → 265人台 → 270人台 → 275人台 → 280人台 → 285人台 → 290人台 → 295人台 → 300人台 → 305人台 → 310人台 → 315人台 → 320人台 → 325人台 → 330人台 → 335人台 → 340人台 → 345人台 → 350人台 → 355人台 → 360人台 → 365人台 → 370人台 → 375人台 → 380人台 → 385人台 → 390人台 → 395人台 → 400人台 → 405人台 → 410人台 → 415人台 → 420人台 → 425人台 → 430人台 → 435人台 → 440人台 → 445人台 → 450人台 → 455人台 → 460人台 → 465人台 → 470人台 → 475人台 → 480人台 → 485人台 → 490人台 → 495人台 → 500人台 → 505人台 → 510人台 → 515人台 → 520人台 → 525人台 → 530人台 → 535人台 → 540人台 → 545人台 → 550人台 → 555人台 → 560人台 → 565人台 → 570人台 → 575人台 → 580人台 → 585人台 → 590人台 → 595人台 → 600人台 → 605人台 → 610人台 → 615人台 → 620人台 → 625人台 → 630人台 → 635人台 → 640人台 → 645人台 → 650人台 → 655人台 → 660人台 → 665人台 → 670人台 → 675人台 → 680人台 → 685人台 → 690人台 → 695人台 → 700人台 → 705人台 → 710人台 → 715人台 → 720人台 → 725人台 → 730人台 → 735人台 → 740人台 → 745人台 → 750人台 → 755人台 → 760人台 → 765人台 → 770人台 → 775人台 → 780人台 → 785人台 → 790人台 → 795人台 → 800人台 → 805人台 → 810人台 → 815人台 → 820人台 → 825人台 → 830人台 → 835人台 → 840人台 → 845人台 → 850人台 → 855人台 → 860人台 → 865人台 → 870人台 → 875人台 → 880人台 → 885人台 → 890人台 → 895人台 → 900人台 → 905人台 → 910人台 → 915人台 → 920人台 → 925人台 → 930人台 → 935人台 → 940人台 → 945人台 → 950人台 → 955人台 → 960人台 → 965人台 → 970人台 → 975人台 → 980人台 → 985人台 → 990人台 → 995人台 → 1000人台

今後の計画: 現状の整理を踏まえて、具体的にどのように研究を進めるかを書く。

5月10日 - 5月20日: 仮説検証のための実験計画を立てる。5月20日 - 6月10日: 実験を実施し、データを収集する。6月10日 - 6月25日: 実験結果を分析し、仮説を検証する。6月25日 - 7月10日: 論文の執筆を開始し、中間発表の準備をする。7月10日 - 7月25日: 論文の執筆を完了し、中間発表の準備を完了する。7月25日 - 8月10日: 中間発表の日を迎え、発表を行う。8月10日 - 8月25日: 発表後の振り返りと今後の研究計画を立てる。

参考文献: 用いている論文や書籍などを、逐一引用して記載する。論文を執筆する際、参照となることを防ぐための準備。

1207 h.grip.CL 30.h - B. Grip CL PLAY BALANCE
25.13.0.1217.13.12 http://www.plat.co.jp/grip/production/special-sites
/dgrip-play-balance

相談したいこと

